

昭和十四年生まれの父は今年八十二歳になる。五男で若くして鋳物を身につけ新しい土地で工場を営んだ。バブルもあり苦勞が実った時代だった。そんな父は厄年の時、脳梗塞になった。私が中学二年の時だった。朝、身体が動かない父に母の指示で救急車を呼んだのを覚えている。父は人生の半分をリハビリと共に生活している事になる。ありがとうを伝えたいのは母だ。若くして右半身にマヒが残った父、子ども二人、鋳物工場を切り盛りした母。工場は閉めたが先のみえない生活、不安だったと思う。愚痴一つ言わず二人の子どもを大学までいかせてもらい今は孫四人。先日父が三日間の入院をした。母は病院に三日とも泊まり父のそばにいた。「病院だから任せたら？」と伝えたが母の気持ちは変わらない。知らない土地で鋳物工場を始めた二人。苦勞も幸せも共に過ごした二人。あなた達のような夫婦になれるかな？ありがとう

私の名前は「幸（さち）」

素晴らしい名前ありがとう

ふじしま さち
藤島 幸さん

